

研究課題

A) 後ろ向き臨床研究の基盤構築

- ▣ 多施設の病院情報システムで蓄積される臨床データの利用
- ▣ 共通構造のデータベースの構築

B) 前向き臨床研究の支援システム

- B-1. 仮想プリンタ技術を用いた方法
- B-2. 入力テンプレートによる方法

A) 後ろ向き臨床研究の基盤構築

現状

- ▣ 個々の病院で、電子カルテシステムにデータが蓄積されている。
- ▣ 分析用データベースを構築し、病院評価・臨床研究に利用している病院が増えつつある。
- ▣ それぞれの分析用データベースの構造、コード体系が異なる。

多施設のデータを利用した臨床研究をするために

それぞれの病院のシステムの担当者が、目的のデータを抽出するための処理方法を考えて実行

A) 後ろ向き臨床研究の基盤構築

問題点

- データの抽出、処理方法の選考などトータルの作業量が大きくなる。
- 施設毎に処理方法に若干の違いが生じ、結果が異なる危険性がある。

A) 後ろ向き臨床研究の基盤構築

解決方法

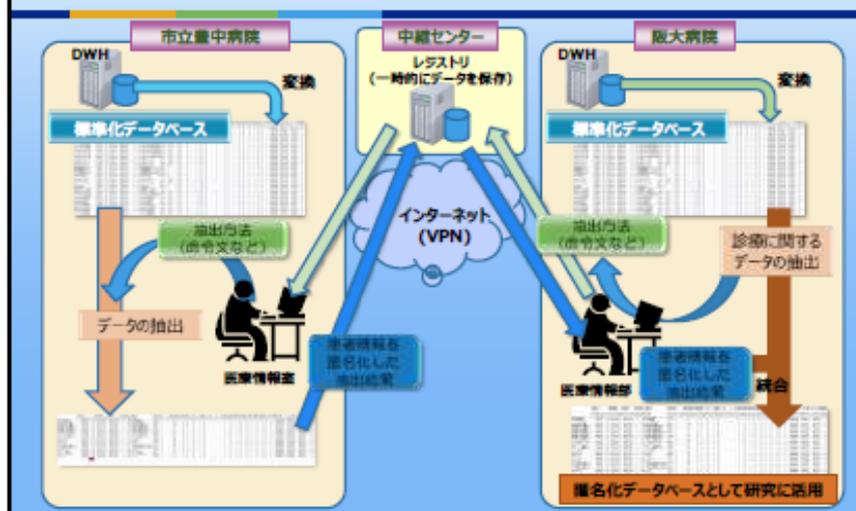
➢ 多施設の臨床データを匿名化してデータセンターに集約させる方法

➡ ■ 各施設の臨床データを外部に出すことについて、院内での議論が必要

➢ 共通構造の共通コードによるデータベースをそれぞれの施設に構築する方法

➡ ■ データは施設の外には出さないため、議論は不要
■ 1施設で実行した処理を、他の施設でそのまま実行して結果を得ることができ、手間がかからない
■ 施設毎に処理方法が同じなので、処理方法のぶれが生じない

A) 後ろ向き臨床研究の基盤構築



B) 前向き臨床研究の支援システム

現状 1

- 診療録に記載されている内容を、医師またはCRCがケースカードに書き写し、センターに郵送
- センターでは、人手でデータベースに入力

